

# 第17回 日本医療マネジメント学会学術総会開催のお知らせ(第1報)

## 医療における不易流行 ～変わらないもの、変わるもの～



### 第17回 日本医療マネジメント学会学術総会 会長 山根哲郎

(パナソニック健康保険組合松下記念病院院長)

わが国ではこれからの超高齢社会にどのように対処するかは大きな社会問題です。医療分野においても医療の質、生命の質を大切に考えつつ、これからの社会情勢に合わせて対応していかなければなりません。その時が来て、想定外として済ませられる問題ではなく、今から対応を考えておかなければならないと考えます。

このような多くの問題を抱え、来るべき高齢時代に備えて、素早かつ確にに対応をしなければならないことがある一方で、医療の中では絶対に変わってはいけないこと、変えてはならないことがあります。俳聖の松尾芭蕉はこのことを『不易流行』という言葉で、変わってはいけないものと、変わらなければならないことを表現しました。

医療のマネジメントにも、不易流行が存在すると思います。変わるべきものとして、これからの社会構造の変革や経済情勢などにあわせて医療行政を進めていかなければなりません。止どまることのない医療費増加は医療のみならず、社会の崩壊も招くことになってしまいます。医療の安全、質の向上、効率化などの改善策として、医療安全、医療連携、クリティカルパスなどが存在し、DPC制度のうえで医療がコントロールされていますが、果たしてそれだけで十分かと考えると、まだまだ大きな問題がたくさんあります。

一方、医療において変わってはいけないものとして、医療人としてのモラル、生命に対する尊厳や患者さんへの思いやりや博愛の精神があります。医療人として「noblesse oblige」「self referral」などの言葉でその責務が叫ばれていますが、何時になれば皆が気付くのでしょうか。

よい医療を永続的に提供するには、医療の質も量もどちらも重要です。現代医療は質より量を求める傾向にあります。質は不易、量は流行であることとみて、どちらも重要であることを認識して医療を継続することが必要と考えます。しかし、これからは医療だけではなくもっと広い視野でこれからの医療を考える必要があります。

医療における“不易流行”を主題として、医療の革新が必要なことと、医療の本質として維持・向上しなければならないことについて、医療現場から発信される様々な問題を本学術総会では取り上げたいと考えています。

会 期：2015年6月12日(金)・13日(土)

会 場：グランキューブ大阪(大阪府立国際会議場)

プログラム(予定)：基調講演、会長講演、招待講演、特別講演、教育講演、教育セミナー、シンポジウム、一般演題(口演/ポスター)、クリティカルパス展示、ランチョンセミナー、市民公開講座等

問い合わせ先：第17回日本医療マネジメント学会学術総会

事務局：パナソニック健康保険組合松下記念病院  
担当：安原(経営企画室)

〒570-8540大阪府守口市外島町5-55

TEL：06-6992-1231 FAX：06-6992-4845

## 開催報告

### 分科会

#### 2013年度医療連携分科会に出席して(医療福祉連携士3期生)

藤枝市立総合病院副院長 横山日出太郎



会場風景

今回は、診療報酬改訂の話が中心で、講演からパネルディスカッションまで内容は盛りだくさんでした。急性期病院に対しては、看護必要度の見直しや平均在院日数の短縮な

どの病床機能評価により病院の位置づけと差別化を行うというものでした。当院は大丈夫か？また忙しくなりそうだと思いながら拝聴しました。大久保教授からは、医療福祉連携士へ「君たちの出番だよ」と熱いメッセージをいただき皆やる気が出たそうです。ありがとうございます。またこの会の発展のためには、会場からの質疑がもっと必要と感じました。

会の終了後3期生を中心に11人で情報交換会を行いました。1年ぶりの再会でもっぱら仕事の話でしたが、苦労話に花が咲き時間の経つのも忘れるほどでした。大雪のため病院職員総出で雪かきをし、まだ手が痛いといいながら情報交換会のためだけに遠方からかけた同期生もありました。初めて顔を合わせた人たちとも年来の友のように話ができ豊かな時間を過ごすことができました。また学術総会で会いましょう。

会の運営にも関わっている1・2期生の活躍や3期生の結束に触れ、連携の和は広がるものと確信しました。皆で盛り上げましょう。